

青年海外協力隊OGの小松詩子さん(ヨルダン)に中東情勢について原稿を頼んだところ送られてきました。

隊員OGからの便り

ヨルダンからの便り (2004/7/4到着)

隊員OG 小松 詩子

ヨルダンに来てそろそろ1年経とうとしています。

隣国イラクはイラク国民に政権が委譲されフセイン元大統領の裁判も始まりましたが、未だに不安定な様相を呈しています。それにひきかえヨルダンの首都アンマンは、在留邦人に対して周辺に気をつけるように勧告は出ていますが何の不安を感じることもなくいたって平穏です。

私の住んでいる地区には24時間スーパーが3件もあり、生活上の不便を感じることは殆どありません。日本ではヨルダンとイラクはとても近いように感じるかもしれませんがアンマンにいるとイラクは遠い国のように思えます。



「24時間スーパー」
中央にある「SAFEWAY」というのが
24時間営業のスーパーです。

こちらではイラク情勢よりもむしろパレスチナ情勢の方に関心があります。というのもヨルダンでは人口の約70%をパレスチナ人が占めているからです。



「モスク」
毎週金曜日はイスラムの礼拝日でモスクの周りには車があふれています。中に入りきれない人たちは道路に座って説教を聞いています。

今年になってイスラエルがハマスの指導者ヤシン師やランティス師を殺害した時には、国内のパレスチナ難民キャンプで抗議デモが行われたようですが、大した騒ぎにもならず特に治安状況に変化はありませんでした。確かに今後の状況次第ではいつまでもヨルダンも安全とは言えないでしょうが、少なくとも現状では格段の不安を駆り立てる状況でないことはまちがいありません。

アンマンは標高900mの高地にあり、夏になると中東の避暑地として湾岸諸国から大勢の人が車で押し掛けてきます。4月以降雨は全然降らず、日中屋外はとても暑いのですが空気が乾燥しているおかげで家の中はひんやりとしてとても過ごしやすいです。特に明け方は涼しくて毛布が必要になることもあります。この時期は至る所でサウジアラビアやクウェートのナンバーを見かけます。そのため特に夕方はあちらこちらで交通渋滞になってしまいます。

日本で感じるヨルダンと大きな隔たりがあるかもしれませんが、今の自分は、周りのアラブ人と同じようにここで日常生活を送っている一人だと感じています。